

植民地朝鮮における他者表象——『朝鮮史』編纂と近代学術知

桂島 宣弘

『朝鮮史』とは朝鮮総督府朝鮮史編修会によって編纂された、古代から高宗に至る編年体の歴史書である。一九二二年設置された朝鮮史編纂委員会設置に端を発し、一九二五年に日朝の学者を組織しての朝鮮史編修会が組織されてから本格的に編纂作業が開始された。一九三二年に刊行が開始され、一九三八年に六編三五巻、二四〇〇〇頁余が完結した。文字どおり、日本の朝鮮に対する植民地支配を象徴する事業であり、植民地支配の中の「他者表象」を如実に示す事業であったといつてよい。そのため、戦後は韓国では植民地支配の負の遺産、収奪の代表的なものとして、全面的に否定された歴史書であった。事実、そうした記述や史観が存在していることは明白である（停滞史観、朝貢国

Ⅱ従属国観、没主体性論Ⅱ他律性論、日朝同祖論など。また日本側でも研究されることは少なく、ようやくにして東大史料編纂所が史料調査に乗り出した段階にある。だが一方で、『朝鮮史』編纂は、近代学術知Ⅱ近代歴史学による記述・造作・塑型であったことも注目される必要がある（史料主義的方法、朝鮮を一個の文化共同体として捉える視点、自然人類学的な視点、王朝編年史的記述など）。そうであればこそ、『朝鮮史』編纂に関わった日本人研究者が戦後も「無反省」でいられ、何よりもこの編纂に関わった朝鮮人研究者が、解放後の歴史学のパイオニアとして、今度は「民族主体性」論の視点から歴史記述を行っていくことを可能にしたといえよう。したがって、『朝鮮史』編纂事業は、まさにヘゲモ

二一の的な日本の植民地支配を象徴するものであったことは当然として、同時に近代学術自体が孕む植民地主義を示すものとして、戦後も継承され再生産され続けていることへの批判として、思想史的に検討されていかなければならぬ。

以上の趣旨の下で、本パネルのグループは、立命館大学と韓国高麗大学校を中心に、二〇〇八年に『朝鮮史』研究会を組織し、以下のような研究会を行ってきた（日本思想史学会大会後のものも含めている）。

第一回研究会 二〇〇八年十月二四日

沈熙燦（立命館大学大学院）「『朝鮮史』編纂の過程について」

桂島宣弘（立命館大学）「『朝鮮史』編纂に関わる諸問題と研究課題」

長志珠絵（神戸市外国語大学）「『朝鮮史』編纂に関わる諸問題と研究課題」

第二回研究会 二〇〇八年十二月五日

庵途由香（立命館大学）「朝鮮総督府の『総動員体制』形成政策とその構造」

第三回研究会 二〇〇八年十二月一九日

佐々充昭（立命館大学）「朝鮮近代における国教創設運動と日鮮同祖論——『檀君即素盞鳴尊』説を中心に」

第四回研究会 二〇〇九年一月一六日

全成坤（韓国高麗大学校）「植民地『朝鮮』という空間における『朝鮮史』と崔南善」

第五回研究会 二〇〇九年五月二二日

金仙熙（韓国高麗大学校）「韓国国定『国史』教科書にみる日韓関係の記述」

第六回研究会 二〇〇九年七月一七日

各自の論文構想発表会

第七回研究会 二〇〇九年七月二五日

高吉嬉（山形大学）「旗田巍と朝鮮史研究——〈在朝日本人二世〉のアイデンティティと日朝友好」

第八回研究会 二〇〇九年十一月六日

桂島・沈「日本思想史学会のパネルセッションの結果報告、夏季史料調査報告」

第九回研究会 二〇〇九年十一月二〇日

三ツ井崇（同志社大学）「植民地期朝鮮におけるハンゲル運動研究の現状と課題」

第十回研究会 二〇一〇年一月十六日

柳美那（韓国国民大学校）「植民地時代朝鮮の儒教について」

第十一回研究会 二〇一〇年一月二二日

各自の論文構想発表会

第十二回研究会 二〇一〇年一月三〇日

木村直也（産業能率大学）「幕末・維新期の朝鮮進出論」

また、二〇〇八年の夏季に二度、二〇〇九年の春季・夏季に三度、二〇一〇年春季に二度、韓国国史編纂委員会図書館、高麗大学校図書館、慶尚大学校図書館などでの史料調査を実施し、相当量の『朝鮮半島史』『朝鮮史』関連の史料を蒐集した。

二〇〇九年十月十八日に実施された本パネルの内容は以下のとおりである。

桂島宣弘「『朝鮮史』編纂の諸問題」

長志珠絵「史料蒐集のポリティクス——帝国の歴史学とポストコロニアル」

高吉嬉「〈在朝日本人二世〉朝鮮史研究者・旗田巍の思想」

金津日出美（韓国高麗大学校）「『朝鮮史』から『国史』へ——『植民史学』と『民族史学』のはざままで」

沈熙燦「植民地朝鮮における『近代歴史学』の成立とポストコロニアルな問い——『檀君論争』を取り上げて」

なお、上記の主な内容については、『季刊日本思想史』第七六号（二〇一〇年六月二十日刊）において「特集 植民地朝鮮における歴史編纂——『併合一〇〇年』からの照射」

として公開したので参照願えれば幸いである。その目次は以下のとおりである。

金性玫（韓国国家報勲処）「朝鮮史編修会の組織と運用」
（金津訳）

尹海東（韓国成均館大学校）「トランスナショナル・ヒストリーの可能性」
（裴貴得訳）

磯前順一（国際日本文化研究センター）・金泰勲（立命館大学大学院）「ポストコロニアル批評と植民地朝鮮」

桂島「植民地朝鮮における歴史書編纂と近代歴史学」
長「『朝鮮史』史料探訪『復命書』を〈読む〉」

沈「実証される植民地、蚕食する帝国」
全「『朝鮮史』と崔南善」

佐々「総督府朝鮮史編纂における檀君論争と李能和の朝鮮神教論」

高「〈在朝日本人二世〉旗田巍における内なる朝鮮」
（立命館大学教授）